

福山大学ワークライフ支援室

男女共同参画推進室 活動報告

福山大学ワークライフ支援室(男女共同参画推進室)



ワークライフ支援室（男女共同参画推進室）活動報告

目次

I はじめに	2
II 男女共同参画推進に係る福山大学の基本施策	3
(1) 男女共同参画宣言	3
(2) 福山大学男女共同参画基本計画	3
(3) 女性教員比率向上のためのポジティブアクション	4
(4) 福山大学ワークライフ支援室（男女共同参画推進室）	4
III ワークライフバランス（男女共同参画推進）に係る啓発活動	5
(1) 最新情報の発信と環境促進のための研修会	5
(2) 地域と連携したセミナー～地元企業の取組から学ぶ～	9
(3) 女性研究者の情報交換会	12
(4) ワークライフ支援室活用促進イベント	19
(5) リクレーシヨンの推進～Shall we アジャダ?～	21
IV 女性研究者の育成活動～大学院進学のおすすめ～	22
V 育児支援活動	22
(1) 学内託児所の需要調査	22
(2) 学内一時預かり保育への協力	25
(3) 育児支援情報の提供と環境整備	28
VI ワークとライフに関するFAQ冊子の発行	28
(1) 日常生活に係る福利厚生	29
(2) 職場環境の保全に係る制度	29
(3) 研究・社会活動の推進に係る制度	29
VII ワークライフ支援室ホームページの開設	29
VIII ワークライフバランス（男女共同参画推進）関連書籍	29
資料	31
• 2009（平成21）年度からの女性教員職位別の推移	
• 職位別の性別教員数の推移	
• 学部別 女性教員職位別人数の推移	
• 職位別女性教員数の推移	
• 女性教員における職位別割合の推移	

I. はじめに

福山大学ワークライフ支援室（男女共同参画推進室）は、本学の男女共同参画やワークライフバランスの推進に携わる中核部署として、2013（平成25）年に設置されました。ワークライフ支援室では、男女共同参画推進を図るため、福山大学男女共同参画基本計画を2014（平成25）年度に5ヵ年計画として策定し、その基本計画に基づき、具体案の提言や外部講師の招聘などによる啓発活動を行ない、教職員の皆さまが生活（家庭）を大切にしながら仕事や研究に従事できるよう、男性も女性も学びやすく働きやすいより良い職場環境を目指して取り組んで参りました。2018（平成30）年度は基本計画の最終年度に当たることから、現計画の進捗状況や成果を評価し、次期計画の策定につなげる必要があります。そこで、ワークライフ支援室におけるこれまでの活動と現計画の推進状況を評価するために、本活動報告書を作成しました。

現在、本学は女性が学長であるように、先駆的な男女共同参画の土壌を有する大学であると考えられます。しかし、教授等の上位職にある女性の割合は必ずしも高いとはいえず、学部によっては女性研究者の存在自体が極めて少ない学部があります。2017（平成27）年のジェンダーギャップ指数における日本の順位は、残念ながら世界114位で、政治や経済への女性の進出が立ち遅れていることが指摘されました。この格差の背景に、先入観や性別による役割の違いを無意識に肯定するジェンダーギャップが社会の根底に潜んでいるのかもしれない。大学は次の世代を担う人材を育成する場所であり、社会の中に無意識のジェンダーギャップがあるとすれば、それらを教育によって払拭する役割を担っています。日本の将来を担う学生達が、男女共同参画社会を実現する意義の重要性を認識し、ワークとライフのバランス感覚を養うことは、とても大切であると考えられます。まさに、大学の職場こそ、先駆的な意識に基づいた男女共同参画やワークライフバランスを現実化させる必要があります。

この活動報告書に、ワークライフ支援室のこれまでの活動内容と共に、ワークライフ支援室にアンケート調査等を通して寄せられた意見を掲載しました。職場の仲間、一人一人の率直な意見や考えを共有化し、課題を見出していくことが、ワークライフ支援室の役割の一つではないかと考えました。2018（平成30）年度に策定する次期計画には、是非とも皆さまからのご意見を活かしたいと考えております。遅々とした歩みかもしれませんが、男性も女性も働きやすい職場環境を目指して、多くの方々のご協力をいただきながら、取組を進めて参りたいと考えております。ワークライフ支援室の活動に、今後共、ご支援ご協力をたまわりますようお願い申し上げます。

福山大学ワークライフ支援室（男女共同参画推進室）

***** **学長メッセージ**（松田文子学長 学長短信 No56 抜粋）*****

ワークライフバランスとか、男女共同参画とかいうと、とかく女性の問題と捉えられがちですが、そうでしょうか。ワークとライフのバランスは男女を問わず重要です。仕事一筋というのはなかなか頼もしい感じですが、仕事上でハードなことが続くと、逃げ場がないので危うい面があります。一歩間違えると、過労死、ということにもなりかねません。「複数の役割に能動的に係わることは精神健康につながる」とも、いわれています。つまり、複数の役割を積極的に担うことは、単に直線的に負担を増加させるのではなく、それぞれの役割の遂行が別のそれぞれのリフレッシュになる可能性があるのです。ワークとライフという価値体系のかなり違う領域の両方で、アクティブに活動することが、それぞれ別な領域での活力になるような、ワークライフバランスを、教職員全員で心がけましょう。



【本冊子は、ワークライフ支援室（男女共同参画推進室）で閲覧できます】

編集後記

この活動報告書は、2019（平成31）年度から取り組む、第2次基本計画について示したものです。また、我が国の状況について各種行政レポートから読み解くと同時に、本学の状況も示しました。全国の状況からも、働きやすく学びやすい環境に向け、第2次基本計画を進めていく必要性を感じました。

この活動報告書に対するご意見やワークライフ支援室（男女共同参画推進室）に対する要望等、皆様から忌憚のないご意見をお待ちしています。

ワークライフ支援室

杉原成美

石井香代子

高羅 ひとみ

劉 国彬

中道 上

谷口敏淳

奥村健一



ワークライフ支援室（男女共同参画推進室）活動報告

編集 福山大学ワークライフ支援室（男女共同参画推進室）

発行 2019（平成31）年3月15日

福山大学



福山大学
FUKUYAMA UNIVERSITY

ワーク&ライフ情報 ～仕事と家庭のバランスを図るために～
編集 福山大学ワークライフ支援室 2018(平成30年)3月